

氏 名：加藤 美佳

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 262 号

学位授与年月日：2024 年 9 月 17 日

学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 小林 京子（聖路加国際大学教授）

副査 大田 えりか（聖路加国際大学教授）

副査 奥 裕美（聖路加国際大学教授）

副査 石川 紀子（総合母子保健センター愛育病院看護部長）

論文題目：妊娠中に糖代謝異常をもつ女性に対する助産師の継続ケアプログラムの実装

博士論文審査結果

審査における主な指摘は以下であった。

加藤氏は、A 病院版 Continuity and coordination of care を基盤とした「助産師外来」における継続ケアを促進するプログラムを実装し、糖代謝異常をもつ女性に対する支援の質改善を図る実装研究を行った。実装は、準備期間を含めた 1 か月ごとの QI サイクルを設定し実装を 4 クール行った。実装アウトカムとして忠実性、実行可能性、適切性、受容性、到達度の 5 項目を臨床アウトカムとして助産師の知識・経験・自信・職務満足度、糖代謝異常をもつ女性の退院時および 1 か月健診時母乳率、体重増加コントロール、LGA 出生率、患者経験価値・満足度を測定した。

糖代謝異常をもつ女性 32 名、助産師 28 名が参加し、4 回の QI サイクルを通じて助産師外来の受診率（10.4%→16.0%）と糖代謝異常患者の受診数（7 名→22 名）が増加した。助産師の知識、経験、自信、職務満足度は向上し、患者満足度も高く（10 点満点中平均 9.33±0.96）、71.9%が他者に勧めると回答した。しかし、完全母乳率や LGA 出生率などの臨床アウトカムには有意差が見られなかった。課題として、継続的なケアの必要性や助産師外来のタイムマネジメントの課題が挙げられた。結果から、プログラムは実行可能で適切であり、受け入れられやすいもので、プロジェクトの促進因子には病院受診フローの改善、経験豊富な助産師の高いスキルと適応力、受診フローの改定、全妊婦への交互受診推奨が挙げられる。一方、外来における助産師外来の周知不足、分娩予約数の少ない時期でのプロジェクト実施時期、医師側のタスクシフト必要性の低さ等が阻害因子となった。プロジェクトは助産師主導の新たなケアモデルの可能性を示し、継続的な改善と拡大により、多くの妊婦とその家族の健康増進に寄与することが期待される。

審査は、2024 年 7 月 29 日に実施された。審査では、実装によって臨床現場の変革があったことが確認され、プロジェクトの重要性とその記述としての博士論文の妥当性が確認された。一方で、以下の修正の指摘があった。①プロジェクトの焦点と達成内容の明確な記述、②PDSA 結果の記述の整理、③論文の章立てのナンバリングと図表の体裁の修正、④考察及び結論に記述される内容のうち、結果に記述がないものについて閣下に記述すること、⑤考察の再構成、⑥その他記述が不明確な内容についての加筆・修正。これらの指摘に対して、修正が行われ、十分に修正されたことを審査員が確認した。

加藤氏は、配属部署を超え、所属施設内の他部署の臨床変革に働きかけ、リーダーシップを発揮し、助産師及び助産師外来の実践に活性化を図った。また、博士課程在籍期間にノースカロライナ大学との共同講義（COIL）のティーチングアシスタントや国際学会や日本助産学会の発表などを行うなど、活発な研究活動を主体性と自立性をもって行ってきた。

以上の加藤氏の業績、学位論文内容から、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。